

1 被害の想定に用いた地震・津波の規模

■ 最大クラスの地震・津波（L2）

- ・現時点の最新の科学的知見に基づく、発生しうる最大クラスの地震・津波
- ・発生時期を予測することはできないが、その発生頻度は極めて低い

■ 発生頻度の高い一定程度の地震・津波（L1）

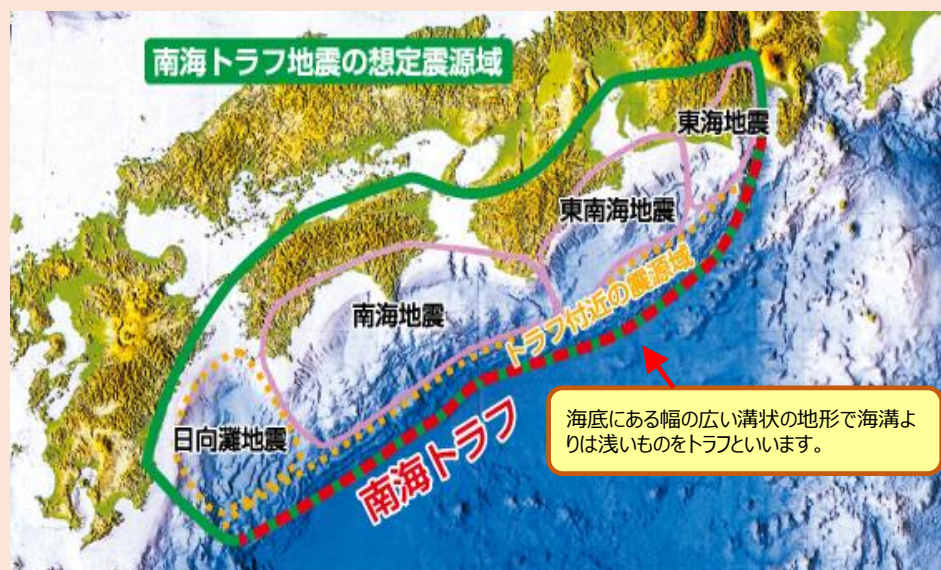
- ・100年から150年程度の周期で発生し、大きな被害をもたらす地震・津波

次の地震の規模を特定することは困難

万全を期するために、**規模の異なる2つの地震**を想定し、幅を持たせた対策に取り組む

2 想定される震源域

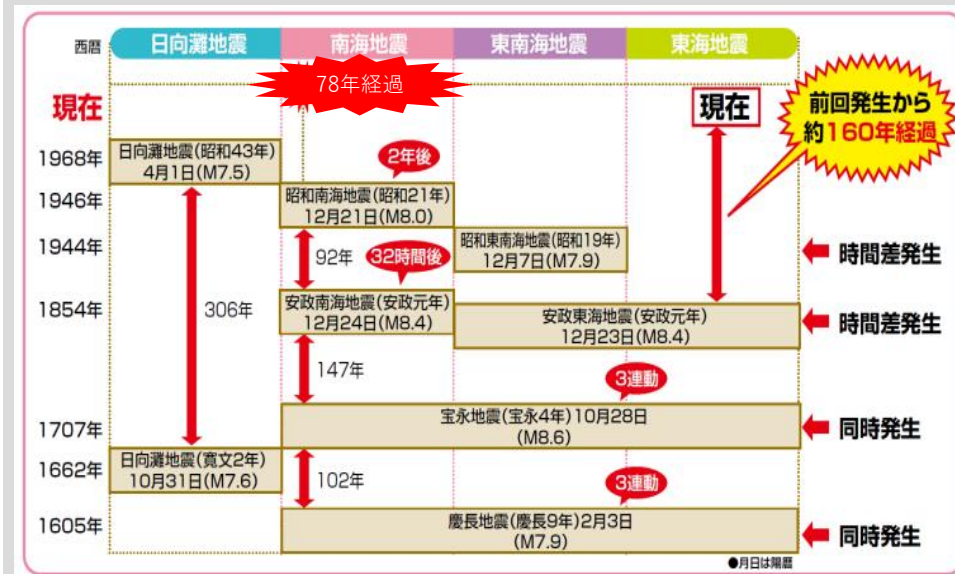
■ 想定震源域図



〔海上保安庁海洋情報部と中央防災会議資料をもとに高知大学総合研究センター 岡村眞特任教授改変〕

3 過去の地震

■ 1600年以後の東海・東南海・南海・日向灘地震



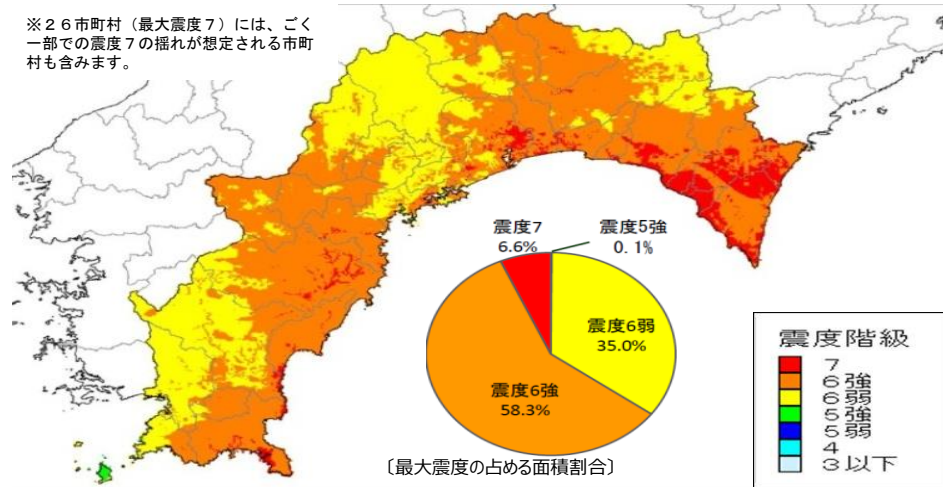
〔「地震調査研究推進本部 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）について」をもとに作成〕

現行の被害想定について

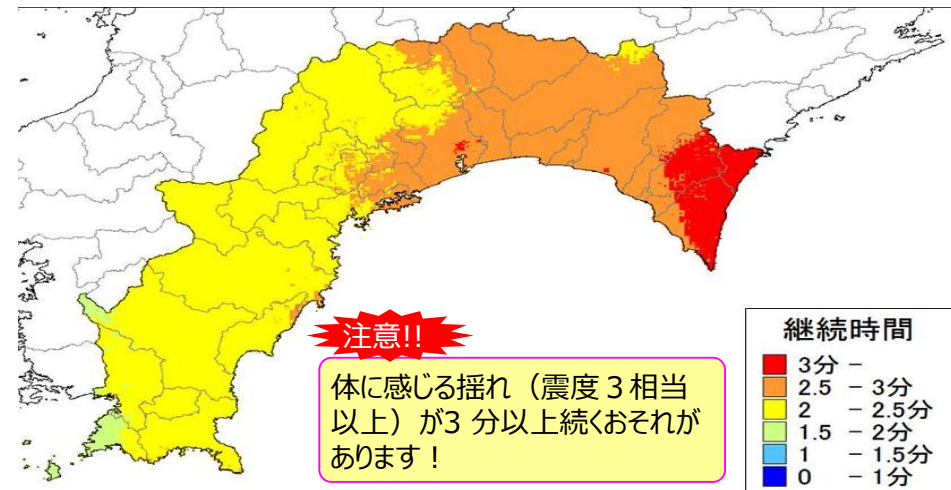
4 最大クラス（L2）の地震の揺れの想定（平成24年12月 高知県公表）

※図は複数の地震発生パターンにより各地で想定される最大震度を重ね合わせたもの

■ 震度分布図（震度7：26市町村、震度6強：8市町村）

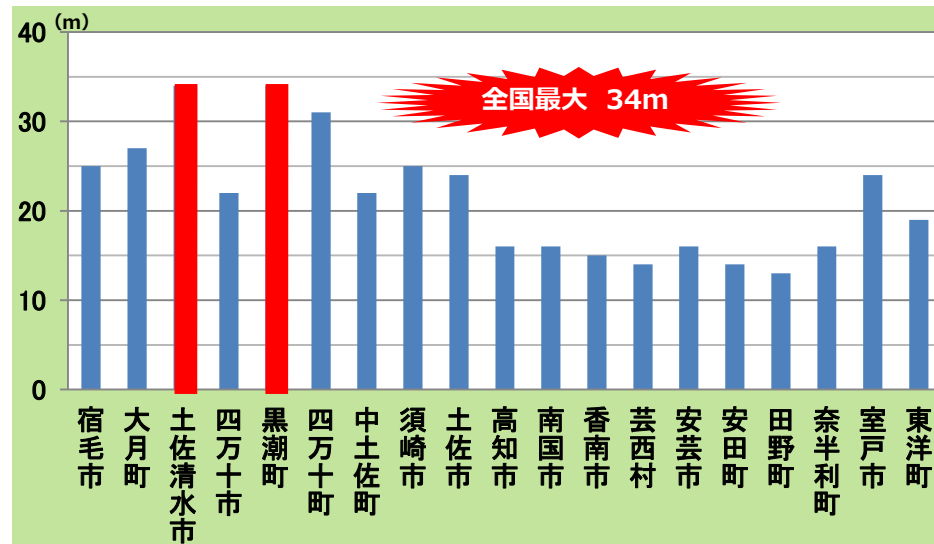


■ 地震継続時間分布図 ※体を感じる揺れ（震度3相当以上）が続く時間

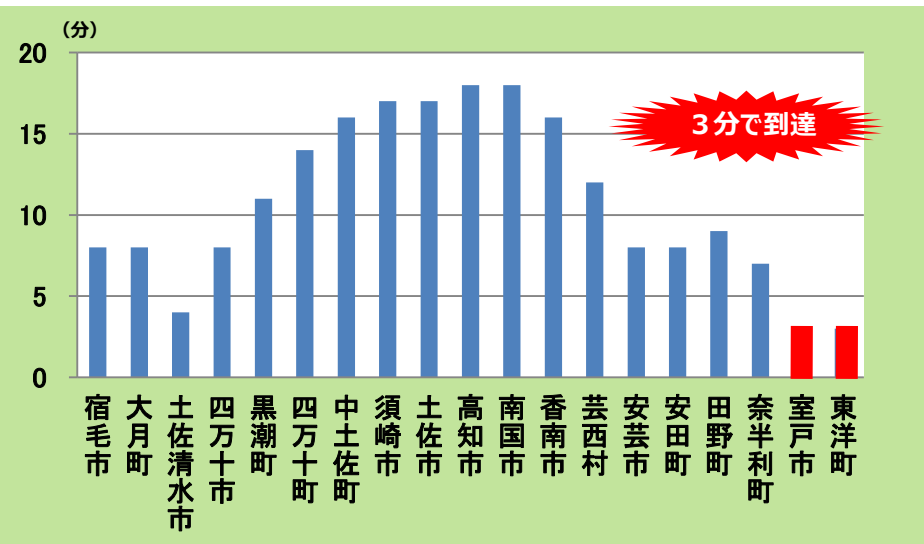


5 最大クラス（L2）の津波の想定（平成24年8月 内閣府公表）

■ 各市町村の海岸線での最大津波高



■ 海岸線への津波到達時間（津波高1m）



（これら地図は、承認番号「平成24情複、第566号」により国土地理院長の承認を得たものから、一部抜粋して使用したものである）

5 最大クラス（L2）の人的被害及び建物被害の想定（平成25年5月 高知県公表）

■ 人的被害（死者数）

	最大クラスの 地震・津波 （L2）	発生頻度の高い一定 程度の地震・津波 （L1）
建物倒壊	約5,200人	約940人
急傾斜地 崩壊	約110人	約20人
津波	約36,000人	約9,900人
火災	約500人	約30人
合 計	約42,000人	約11,000人

■ 建物被害（全壊棟数）

	最大クラスの 地震・津波 （L2）	発生頻度の高い一定 程度の地震・津波 （L1）
液状化	約1,100棟	約1,100棟
揺 れ	約80,000棟	約15,000棟
急傾斜地 崩壊	約710棟	約170棟
津波	約66,000棟	約17,000棟
火災	約5,500棟	約3,000棟
合 計	約153,000棟	約36,000棟

※【L2の想定条件】地震動：陸側ケース、津波：ケース4、冬深夜

※【L1の想定条件】冬深夜

※住宅耐震化率：74%、津波早期避難率：20%、津波避難空間整備率：26%

※人口は、国勢調査（平成17年度）の人口メッシュデータから整理している（総人口：約796,000人）

※建物棟数は、固定資産台帳データ及び非課税建物データを収集して整理している（総建物数：約448,000棟）